

厚生労働科学研究費補助金(循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業)  
公衆衛生領域を中心とした自治体栄養士養成プログラム開発のための研究  
分担研究報告書

市町村(保健所設置市を除く)に勤務する行政栄養士を対象とした調査

－個別に対する悉皆調査－

研究分担者	小山 達也	青森県立保健大学健康科学部栄養学科
研究代表者	由田 克士	大阪市立大学大学院生活学研究科食・健康科学講座
研究分担者	澁谷いづみ	愛知県一宮保健所
研究分担者	田中 和美	神奈川県立保健福祉大学栄養学科
研究分担者	荒井 裕介	千葉県立保健医療大学健康科学部栄養学科
研究分担者	串田 修	静岡県立大学食品栄養科学部栄養生命科学科
研究協力者	磯部 澄枝	新潟県新潟地域振興局健康福祉部
研究協力者	諸岡 歩	兵庫県健康福祉部健康局
研究協力者	飯田 綾香	神奈川県立保健福祉大学栄養学科

研究要旨

市町村の行政栄養士の人材育成に関する実態やニーズ等を把握することを目的とした。2021年1～3月に保健所設置市を除く市町村の行政栄養士を対象に、職能団体(日本栄養士会)の入会状況、関連学術団体の入会状況、自身の将来のために必要なスキルアップに関する設問を含むアンケートをウェブ上で実施した。1,031名から回答を得た。約4分の3の回答者が職能団体に加入していたが、関連学術団体に加入している者はほとんどいなかった。自身の将来性の方向は、「栄養のスペシャリストとして、今後も業務を続けたい」と回答する者が最も多く、自身の将来にとってスキルアップしておかなければならなければならないことは、「専門能力」と回答した者が多かった。スキルアップのために希望する外部機関や取り組みでは、職能団体を掲げる割合が高いことから、職能団体と連携した研修会の開催が望まれているのかもしれない。

A. 目的

国民の健康増進に向けて、市町村の行政栄養士は、地域の特性や栄養課題を踏まえて効果的な公衆衛生活動が求められる。厚生労働省によれば、全国の保健所設置市を除く市町村のうち89.5%の市町村で配置されているが、勤務している行政栄養士は2,870

人の行政栄養士であり、市町村当たりの配置人数は少ない。市町村の行政栄養士は求められる役割や時間の経過とともに発生・変化する課題に対し、最善の対応ができるよう、勤務年数や職位に応じ、常に十分な知識や技能を身につけておかなければならない。その中で、人材育成が重要となってくる

が、市町村の行政栄養士の人材育成についての実態やニーズは必ずしも明らかにはされていない。本調査では、市町村に勤務する行政栄養士を対象に、自治体ごとの人材育成に関する実態や個別のニーズを収集することを目的とした。

## B. 研究方法

### (1) 対象者

本調査の対象者は、保健所設置市を除く市町村に勤務する行政栄養士であり、現在、地域の健康づくりに関わる業務を専従もしくは兼務で担当しており、次の①と②の両方を満たす者とした。①厚生労働省の調査において、行政栄養士として回答している場合、②雇用形態が常勤または常勤的非常勤（週4日以上で1日6時間以上の勤務）である場合。ただし、現時点で、福祉・保育・高齢者・教育委員会・医療などの分野を専従で担当されている者は対象外とした。

### (2) 調査方法

調査時期は2021年1月29日～2021年3月2日にウェブによるオンライン調査を実施した（株式会社サーベイリサーチセンター）。アンケートフォームの冒頭に協力依頼文を示した。依頼文には、調査目的、無記名方式であること、調査への協力は任意であり回答をもって同意とみなすこと、回答がなくても不利益は生じないことを明記した。また、回答の返送に際して、個人を特定できる情報等が研究班側に伝わる可能性があることから、調査票の回答に関わる画面作成とあらゆる返信の受信については委託会社に依頼し、研究側は委託会社により得られた単純に入力されたデータベースのみを受け取り、個人を特定できる可能性のあるメール

アドレス等の情報は一切受領しないこと、委託会社に対しては、回答者の個人を特定できる情報等について、調査終了後すべて破棄すること、他の目的での二次利用を禁止すること等、情報の取扱について明記した。

調査の実施にあたり、公益社団法人日本栄養士会公衆衛生事業部を通じて、周知と協力の依頼を行った。

本調査は、大阪市立大学生生活科学研究科生活科学部倫理委員会に対して、審査を依頼し、その承認を得て実施した。

### (3) 調査項目

調査項目の作成にあたっては、研究班において案を作成し、現職の行政栄養士からの助言を踏まえて検討を行った（調査票は別添）。

調査項目は、基本属性（年齢、性別、行政栄養士としての通算勤務歴、現在働いている地域、現在勤務している行政区分、現在勤務している業績機関・部署、現在の職位、学歴、論文作成の実績、資格）、自身の将来について（最終的に希望する職位、最終的に希望する職位の理由、自身の将来性、自身の将来にとってスキルアップしておかなければならない内容）、職能団体の入会状況とその理由（職能団体の入会の有無、職能団体に入会している/していない理由、直近1年間の職能団体を実施する研修会の参加頻度）、関連団体の入会状況とその理由（関連団体の入会の有無、関連学会に入会している/していない理由、直近1年間の関連団体を実施する研修会の参加頻度）、自身の将来のために必要なスキルアップについて（スキルアップのために希望する外部機関や取組み、スキルアップのために必要な体制整備、スキルアップのため、現在勤務

している自治体及び都道府県が実施した研修で特に役立ったと思う内容、自身のスキルアップのための認定栄養士・認定専門家制度の必要性、環境が整備され、自身がスキルアップを開始しようとする際、必要なこと、勤務する市町村のすべての管理栄養士のうち、10年後に最も高い職位となる者が得てほしい職位、現在の職場において、あなたが業務を遂行するに当たって、日常的に連携している職種、職場内外を問わず、行政栄養士が連携することが理想である職種、自身のキャリアプランの有無、ビジョンや目標を掲げて仕事をしているか、目標とする栄養士像もしくは人物像の有無)とした。

#### (4) 集計方法

集計は、設問ごとの単純集計を行った。割合は、回答者全数を分母に計算した。

### C. 研究結果

1,031名の者から回答があった(回答率35.9%)。年齢は、各年代ほぼ均等からの回答があり、ほとんどの回答者は女性であった(表1)。現在勤務している行政区分は、市が65.0%、町又は村が35.0%であった。現在勤務している行政機関・部署は、地域の保健センターが605名(58.7%)、本庁が392名(38.0%)であった。現在の職位は、係員が最も多く、872名(84.6%)であった。学歴は大学が66.2%(683名)を占め、次いで短期大学(243名、23.6%)であった。卒業論文を執筆したことがある者は、692名(67.1%)であったが、修士論文、博士論文の執筆、専門分野の雑誌の筆頭筆者としての論文を掲載したことがある者はほとんどいなかった。管理栄養士・栄養士以外の資格がある者は、330名(32.0%)であった。

地域の健康づくりの勤務歴は、3年未満、5年以上10年未満、10年以上20年未満、3年以上5年未満の順に多く、30年以上の者はほとんどいなかった(表2)。高齢者福祉、児童福祉、教育委員会は勤務経験がないものが半数以上であった。

最終的に希望する職位は、係員が521名(50.5%)、監督職が328名(31.8%)、管理職が182名(17.7%)であった(表3)。最終的に希望する職位の理由としては、「昇任することよりも他職種との人間関係を重視したい」、「自身に昇任するだけの学力や能力は備わっていないと思う」、「幅広く自治体の行政に関わり、大局的な視点から業務を行いたい」の順に多かった。自身の将来性の方向性は、「栄養のスペシャリストとして、このまま行を行いたい」と回答する者が685名(66.4%)であった。専門能力を自身の将来にとってスキルアップしておかなければならない内容は、専門知識が最も回答が多かった(731名、70.9%)。

職能団体(日本栄養士会)に入会している者は、765名(74.2%)であり、入会していない者は266名(25.8%)であった(表4)。入会している理由としては、「必要な情報や知識・技術が得られるため」が最も多かった。直近1年間の職能団体を実施する研修会の参加状況は、1~2回が最も多かった。一方、職能団体に入会していない理由としては、「会費に見合っただけのメリットがない」が最も多かった。

日本公衆衛生学会、日本栄養改善学会、日本健康教育学会などの関連学術団体に入会している者はほとんどいなかった(表5)。関連学術団体に入会している理由としては、「所属することで、職場では得られな

い必要な情報や知識が得られる」が最も多く、直近1年間の職能団体が実施する研修会の参加状況は、1～2回が最も多かった。一方、関連学術団体に入会していない理由としては、「特に理由はない(入会する機会がなかった)」が最も多かった。

自身のスキルアップのための外部機関や取組みは、「栄養系の大学院」、「職能団体の研修」を希望順位1位で選択する者が多かった(表6)。スキルアップのために必要な体制整備は、「研修体制の整備」を優先すべき順位1位で回答する者が多かった(表7)。現在勤務している自治体及び都道府県が実施した研修で特に役立つ内容は、「栄養・食生活・食育・給食経営管理に関する研修」が708名(68.7%)と最も回答が多かった(表8)。スキルアップのために認定栄養士・認定専門家制度の必要性については、とても必要または必要と回答した者は、458名(44.4%)であった。自身がスキルアップを開始しようとする際、必要なこととしては、時間が確保されることと回答する者が570名(55.3%)であった。自身が勤務する市町村で10年後に管理栄養士が得てほしい職位は、管理職が最も多く514名(49.9%)であり、次いで監督職が380名(36.9%)であり、係員が136名(13.2%)であった。

現在の職場で連携している職種としては、保健師、事務職、他分野の管理栄養士・栄養士、歯科衛生士の順であった(表9)。職場内外を問わず、行政栄養士が連携することが重要である職種としては、他分野の管理栄養士・栄養士、医師、歯科衛生士の順であった。自身のキャリアプランがあると回答した者は139名(13.5%)であった。ビジョンや目標を掲げて仕事をしている者は378名

(36.7%)であった。目標とする栄養士像もしくは人物像があると回答した者は、531名(51.5%)であった。

#### D. 考察

保健所設置市を除く市町村に勤務する行政栄養士を対象にアンケート調査を実施した。その結果、高齢者福祉や児童福祉、教育委員会など地域の健康づくり以外に勤務したことがない者が半数以上であった。現在の職位は係員が多数を占め、自身の最終的な職位の希望も半数は係員であった。一方で、勤務する市町村の全ての管理栄養士のうち10年後に最も高い職位となるものが得てほしい地位は監督職や管理職が多数であった。そのため、自身は必ずしも昇進は望んでいないが、市町村の行政栄養士としては係員よりも高い地位である監督職や管理職の地位が目指すべき姿として考えていることが示された。

自身の将来性として、「栄養のスペシャリストとして、このまま業務を続けたい」と回答した者が3分の2を占め、自身の将来にとってスキルアップしておかなければならなければならないことも「専門能力」と回答した者が3分の2を占めた。また、スキルアップのために、現在勤務している自治体及び都道府県が実施した研修で役に立ったこととして、栄養・食生活・食育・給食経営管理に関する内容が最も高かったことから、栄養に関する専門能力を高めるような研修が求められていることが示された。

職能団体に入会している割合は高かったが、関連学術団体に入会している割合は低かった。また、スキルアップのために希望する外部機関や取組みでも、職能団体を揚げ

る割合が高いことから、職能団体と連携した研修会の開催が望まれているのかもしれない。

現在の職場で連携している職種は、保健師、事務職、他分野の管理栄養士・栄養士、歯科衛生士の順であり、職場内外を問わず、行政栄養士が連携することが重要である職種としては、他分野の管理栄養士・栄養士、医師、歯科衛生士の順であったことから、保健師や事務職、歯科衛生士などの他職種だけでなく、他分野の管理栄養士・栄養士の同職種を含めた多職種連携が求められている可能性が示された。

本研究の限界として、回答には偏りが生じている可能性があることである。すべての都道府県や保健所に対して管轄の市町村へ周知の依頼をしたが、日本栄養士会を通じても周知と依頼を行ったことから、日本栄養士会に所属していない行政栄養士への周知が十分でなく回答に至っていない可能性がある。調査を実施した時期が、首都圏を中心に緊急事態宣言が発令されていた時期と重なっていて、新型コロナウイルス感染症対策のため、多忙を極めており、本調査への回答ができなかった行政栄養士が存在することも考えられる。推定される回収率も35.9%と必ずしも高いわけではないことから、結果の解釈は慎重に行う必要がある。また、子の報告では単純集計のみの報告となった。今後は、年齢別などの現状を明らかに

するため、詳細な解析を行い、次年度以降の研究に活用する。

## E. 結論

保健所設置市を除く市町村に勤務する行政栄養士を対象に、人材育成に関する実態やニーズ等を把握することを目的としたウェブ調査を実施し、1,031名から回答があった。約4分の3の回答者が職能団体に入会し、職能団体をスキルアップのために希望する外部機関や取組みとして挙げる割合が高いことから、人材育成を行うにあたっては職能団体と連携した研修会が望ましいのかもしれない。また、対象者の多くが、栄養のスペシャリストとして、このまま業務を続けたいと回答し、自身の将来にとってスキルアップしておかなければならなければならないことも専門能力と回答したことから、研修の内容としては、栄養に関する専門能力が求められている可能性が高いと考えられた。

## G. 研究発表

1. 論文発表  
なし
2. 学会発表  
なし

## H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

表 1.基本属性 (n=1031)

		n	(%)
年齢	20 歳代	249	(24.2)
	30 歳代	312	(30.3)
	40 歳代	315	(30.6)
	50 歳代以上	155	(15.0)
性別	女性	1004	(97.4)
	男性	27	(2.6)
現在勤務している行政区分	市	670	(65.0)
	町または村(郡を含む)	361	(35.0)
現在勤務している行政機関・部署	本庁	392	(38.0)
	地域の保健センター	605	(58.7)
	その他	33	(3.2)
	無回答	1	(0.1)
現在の職位	係員	872	(84.6)
	監督職(係長に準ずる)	126	(12.2)
	管理職(課長補佐、主幹以上)	33	(3.2)
学歴(管理栄養士・栄養士資格の取得もしくは関連分野に関わる最終学歴)	専門学校	39	(3.8)
	短期大学	243	(23.6)
	短期大学専攻科	42	(4.1)
	大学	683	(66.2)
	大学院修士(博士前期)課程	23	(2.2)
	大学院博士後期課程	1	(0.1)
卒業論文を作成	ある	692	(67.1)
	ない	339	(32.9)
	無回答	0	(0.0)
修士論文を作成	ある	38	(3.7)
	ない	990	(96.0)
	無回答	3	(0.3)
博士論文を作成	ある	4	(0.4)
	ない	1024	(99.3)
	無回答	3	(0.3)
専門分野の雑誌に筆頭著者として論文を掲載	ある	28	(2.7)
	ない	1001	(97.1)
	無回答	2	(0.2)
管理栄養士・栄養士以外の資格	ある	330	(32.0)
	ない	690	(66.9)
	無回答	11	(1.1)

表 2 行政栄養士としての通算勤務歴 (n=1031)

	勤務経験なし		3年未満		3年以上5年未満		5年以上10年未満		10年以上20年未満		20年以上30年未満		30年以上		無回答	
	n	(%)	n	(%)	n	(%)	n	(%)	n	(%)	n	(%)	n	(%)	n	(%)
地域の健康づくり(母子保健、成人保健(特定健診・特定保健指導)を含む)	11	(1.1)	281	(27.3)	133	(12.9)	189	(18.3)	183	(17.7)	107	(10.4)	10	(1.0)	117	(11.3)
高齢者福祉(介護予防等)	589	(57.1)	98	(9.5)	39	(3.8)	36	(3.5)	23	(2.2)	12	(1.2)	2	(0.2)	232	(22.5)
児童福祉(保育所等)	615	(59.7)	50	(4.8)	48	(4.7)	51	(4.9)	30	(2.9)	8	(0.8)	1	(0.1)	228	(22.1)
教育委員会(学校保健等)	674	(65.4)	47	(4.6)	24	(2.3)	34	(3.3)	13	(1.3)	4	(0.4)	1	(0.1)	234	(22.7)
その他の勤務歴	680	(66.0)	42	(4.1)	19	(1.8)	23	(2.2)	20	(1.9)	3	(0.3)	1	(0.1)	243	(23.6)
業務内容を明確に区別できない場合(常に複数の業務を担当)の総勤務歴	297	(28.8)	58	(5.6)	48	(4.7)	49	(4.8)	75	(7.3)	46	(4.5)	9	(0.9)	449	(43.5)

表3 自身の将来性について (n=1031)

		n	(%)
最終的に希望する職位	係員	521	(50.5)
	監督職(係長に準ずる)	328	(31.8)
	管理職(課長補佐、主幹以上)	182	(17.7)
最終的に希望する職位の理由	他職種に負けないよう昇任して業務を行いたい	152	(14.7)
	既に他職種や自身が目指す職位者と同等以上に業務を行える自信がある	49	(4.8)
	昇任して人事権や予算権を持って業務を行いたい	52	(5.0)
	昇任して自身や同僚の管理栄養士等が立案した施策を積極的に展開したい	194	(18.8)
	昇任して組織内での管理栄養士等の定員を増やしたい	166	(16.1)
	昇任して組織内での管理栄養士等の役職ポストを増やしたい	105	(10.2)
	幅広く自治体の行政に関わり、大局的な視点から業務を行いたい	263	(25.5)
	従前からの慣例で昇任できる職位は決まっている	134	(13.0)
	昇任することよりも他職種との人間関係を重視したい	314	(30.5)
	育児や介護を優先したいので、無理に昇任したくない	247	(24.0)
	健康上の理由で、無理に昇任したくない	85	(8.2)
	自分自身が自由に使える時間を減らしたくないので、無理に昇任したくない	195	(18.9)
	昇任することで、過大な責任を負いたくない	200	(19.4)
	自身に昇任するだけの学力や能力は備わっていないと思う	283	(27.4)
	現状に満足しているので、昇任する必要性を感じていない	159	(15.4)
	その他の理由(自由記載: 無回答	151 2	(14.6) (0.2)
	自身の将来性	栄養のスペシャリストとして、このまま業務を行いたい	685
栄養のスペシャリストとして、昇任して業務を行いたい		179	(17.4)
公衆衛生関係のゼネラリストとして、このまま業務を行		176	(17.1)
公衆衛生関係のゼネラリストとして、昇任して業務を行		87	(8.4)
国や他自治体に転職をしたい		37	(3.6)
自身の能力をさらに発揮するため、健康づくり業務以外の部署(行		141	(13.7)
自身の能力をさらに発揮するため、健康づくり業務以外の部署(行		46	(4.5)
自身の特性に合致しないため、過去に勤務していた健康づくり業務		15	(1.5)
職種転換(事務職等)をしたい		58	(5.6)
行政以外の仕事に転職したい(大学等の教員や研究職)		49	(4.8)
行政以外の仕事に転職したい(大学等の教員や研究職以外)	124	(12.0)	
退職したい(働く気持ちがない)	45	(4.4)	
無回答	1	(0.1)	
自身の将来にとってスキルアップしておかなければならない内容	行政能力(職業倫理、行動規範等)	234	(22.7)
	専門能力(専門分野の知識、栄養指導技術等)	731	(70.9)
	地域支援力(他職種連携、住民との協働等)	435	(42.2)
	調査研究能力(情報収集、データ分析解析、実践研究報告(論文)	276	(26.8)
	調整能力(リーダーシップ、合意形成、論理的な説明、コミュニケ	329	(31.9)
	政策形成能力(PDCA サイクルに基づく政策形成と評価等)	280	(27.2)
	情報発信能力(プレゼンテーション、仕事の見える化等)	290	(28.1)
	組織運営能力(「人・もの・予算」の適切な獲得)	165	(16.0)
	危機管理能力(災害・食中毒・感染症等への対応等)	172	(16.7)
その他(自由記載:	12	(1.2)	

表 4 職能団体の入会状況とその理由 (n=1031)

		n	(%)
職能団体の入会 の有無	入会している	765	(74.2)
	入会していない	266	(25.8)
職能団体に入会 している理由	必要な情報や知識・技術が得られるため	588	(76.9)
	他分野の管理栄養士等と関わり、自身の仕事の幅を広げたり、新たな人間関係を構築したかったため	287	(37.5)
	職能団体としての社会的地位向上に貢献したいため	118	(15.4)
	養成施設の教員や先輩栄養士等の関係者より入会を勧められたため	215	(28.1)
	職務上入会する必要があったため	257	(33.6)
	その他	9	(1.2)
直近 1 年間の職 能団体を実施す る研修会の参加 頻度	3回以上	167	(21.8)
	1回～2回	323	(42.2)
	参加していない	275	(35.9)
職能団体に入会 していない理由	会費に見合っただけのメリットがない	125	(47.0)
	特に入会しなくても、必要な情報や知識は、職場、所属する学会役員などの業務を引き受けたくない	117	(44.0)
	日常、支援・指導している他分野の管理栄養士等と関わりたくない	59	(22.2)
	自身のプライベートを大切にしたい	2	(0.8)
	自身のプライベートを大切にしたい	33	(12.4)
	会費の未納等の理由により、いつの間にか退会扱いとなった	17	(6.4)
	特に理由はない(入会する機会がなかった)	67	(25.2)
その他	47	(17.7)	

表 5 関連学術団体の入会状況とその理由 (n=1031)

		n	(%)
日本公衆衛生学会	入会している	28	(2.7)
	入会していない	1003	(97.3)
	無回答	0	(0.0)
日本栄養改善学会	入会している	66	(6.4)
	入会していない	965	(93.6)
	無回答	0	(0.0)
日本健康教育学会	入会している	6	(0.6)
	入会していない	1025	(99.4)
	無回答	0	(0.0)
日本栄養・食糧学会	入会している	6	(0.6)
	入会していない	1025	(99.4)
	無回答	0	(0.0)
その他	入会している	106	(10.3)
	入会していない	918	(89.0)
	無回答	7	(0.7)
関連学術団体に 入会している理 由	会費に見合っただけのメリットがあるため	44	(24.9)
	業務の実績等を発表・発信するため	17	(9.6)
	所属することで、職場では得られない必要な情報や知識が得られるため	135	(76.3)
	役員などの業務を通じて、職種としての資質向上に生かしたいため	6	(3.4)
	他職種や他分野の管理栄養士等と関わり、自身の仕事の幅を広げたり、新たな人間関係を構築するため	47	(26.6)
	認定資格等を新たに取得したり、継続・維持するため	41	(23.2)
	その他	14	(7.9)
直近1年間の職 能団体・関連学 術団体以外が実 施する研修会の 参加頻度	3回以上	231	(22.4)
	1回～2回	412	(40.0)
	参加していない	387	(37.5)
	無回答	1	(0.1)
関連学術団体に 入会していない 理由	会費に見合っただけのメリットがない	151	(17.8)
	特に入会しなくても、必要な情報や知識は、職場、所属する学会誌、インターネット等から得られる	255	(30.0)
	役員などの業務を引き受けたくない	86	(10.1)
	他職種や他分野の管理栄養士等と交流する必要性を感じないため	7	(0.8)
	自身のプライベートを大切にしたい	82	(9.6)
	会費の未納等の理由により、いつの間にか退会扱いとなった	7	(0.8)
	特に理由はない(入会する機会がなかった)	565	(66.5)
その他	47	(5.5)	

表6 スキルアップのために希望する外部機関や取り組み (n=1031)

	国立保健医療 科学院		栄養系の大学 院		医学系の大学 院(公衆衛生 大学院を含 む)		その他の分野 の大学院(教 育、福祉、工 学、理学など)		職能団体の研 修(認定資格 制度に関わる 研修も含む)		関連学術団体 の研修(認定 資格制度に関 わる研修も含 む)		その他		該当無し		無回答	
	n	(%)	n	(%)	n	(%)	n	(%)	n	(%)	n	(%)	n	(%)	n	(%)	n	(%)
1位	116	(11.3)	272	(26.4)	58	(5.6)	24	(2.3)	266	(25.8)	110	(10.7)	27	(2.6)	158	(15.3)	0	(0.0)
2位	119	(11.5)	157	(15.2)	141	(13.7)	27	(2.6)	148	(14.4)	236	(22.9)	7	(0.7)	192	(18.6)	4	(0.4)
3位	142	(13.8)	180	(17.5)	174	(16.9)	84	(8.1)	95	(9.2)	87	(8.4)	6	(0.6)	257	(24.9)	6	(0.6)
4位	116	(11.3)	102	(9.9)	136	(13.2)	183	(17.7)	107	(10.4)	82	(8.0)	1	(0.1)	294	(28.5)	10	(1.0)
5位	117	(11.3)	43	(4.2)	148	(14.4)	120	(11.6)	169	(16.4)	101	(9.8)	5	(0.5)	318	(30.8)	10	(1.0)
6位	110	(10.7)	15	(1.5)	62	(6.0)	253	(24.5)	30	(2.9)	181	(17.6)	14	(1.4)	354	(34.3)	12	(1.2)
7位	14	(1.4)	3	(0.3)	3	(0.3)	6	(0.6)	2	(0.2)	6	(0.6)	28	(2.7)	949	(92.0)	20	(1.9)

表7 スキルアップのために希望する外部機関や取り組み (n=1031)

	研修体制の整 備(教育プログ ラムの充実)		受け入れ人数 の拡大		遠隔教育の充 実		職場の理解と 協力		経済的な支援		その他		該当無し		無回答	
	n	(%)	n	(%)	n	(%)	n	(%)	n	(%)	n	(%)	n	(%)	n	(%)
1位	368	(35.7)	19	(1.8)	213	(20.7)	233	(22.6)	123	(11.9)	24	(2.3)	51	(4.9)	0	(0.0)
2位	190	(18.4)	78	(7.6)	253	(24.5)	247	(24.0)	180	(17.5)	11	(1.1)	70	(6.8)	2	(0.2)
3位	152	(14.7)	139	(13.5)	214	(20.8)	199	(19.3)	201	(19.5)	6	(0.6)	117	(11.3)	3	(0.3)
4位	152	(14.7)	226	(21.9)	147	(14.3)	159	(15.4)	151	(14.6)	3	(0.3)	186	(18.0)	7	(0.7)
5位	57	(5.5)	326	(31.6)	76	(7.4)	77	(7.5)	225	(21.8)	7	(0.7)	253	(24.5)	10	(1.0)
6位	0	(0.0)	9	(0.9)	4	(0.4)	0	(0.0)	16	(1.6)	25	(2.4)	957	(92.8)	20	(1.9)

表8 自身の将来のために必要なスキルアップについて (n=1031)

		n	(%)
スキルアップのため、 現在勤務している自 治体及び都道府県が 実施した研修で特に 役立ったと思う内容	栄養・食生活・食育・給食経営管理に関する研修	708	(68.7)
	保健活動業務に関する研修	559	(54.2)
	医学的な知識に関する研修	373	(36.2)
	行動科学に関する研修	230	(22.3)
	疫学に関する研修	66	(6.4)
	コミュニケーションに関する研修	193	(18.7)
	リーダーシップに関する研修	47	(4.6)
	企画能力に関する研修	93	(9.0)
	情報収集に関する研修	50	(4.8)
	各種データの分析(統計学)に関する研修	161	(15.6)
	PDCAサイクルに基づく政策形成・評価に関する研修	203	(19.7)
	情報発信・プレゼンテーション・仕事の見える化に関する研修	104	(10.1)
	組織経営能力(「人・もの・予算」の適切な獲得)に関する研修	24	(2.3)
	健康危機管理(感染症対策・災害時対応)に関する研修	198	(19.2)
	報告書や論文作成に関する研修	28	(2.7)
	論文読解や論文活用に関する研修	7	(0.7)
	住民との協働に関する研修	56	(5.4)
	行政指導に関する研修	58	(5.6)
	勤務年数や職位に応じた研修	183	(17.7)
	ジョブローテーション	7	(0.7)
その他(自由記載:	30	(2.9)	
自身のスキルアップの ための認定栄養士・認 定専門家制度の必要 性	とても必要	65	(6.3)
	必要	393	(38.1)
	現状レベルでよい	218	(21.1)
	あまり必要ではない	99	(9.6)
	わからない	256	(24.8)
環境が整備され、自 身がスキルアップを開 始しようとする際、必 要なこと	職場の人員増	220	(21.3)
	業務負担の軽減	232	(22.5)
	業務の効率化	292	(28.3)
	時間が確保できること	570	(55.3)
	金銭面の支援や確保ができること	346	(33.6)
	家族からの理解や協力が得られること	182	(17.7)
	上司や同僚からの理解や協力が得られること	360	(34.9)
	通学・参加のしやすさの向上	265	(25.7)
	一緒に学ぶ仲間ができること	99	(9.6)
	スキルアップしようとする意欲の向上	297	(28.8)
	無回答	1	(0.1)
勤務する市町村のす べての管理栄養士の うち、10年後に最も高 い職位となる者が得て ほしい職位	係員	136	(13.2)
	監督職(係長に準ずる)	380	(36.9)
	管理職(課長補佐、主幹以上)	514	(49.9)
	無回答	1	(0.1)

表 9 多職種連携・自身のキャリアプラン等について (n=1031)

		n	(%)
現在の職場において、あなたが業務を遂行するに 当たって、日常的に連携している職種	他分野の管理栄養士・栄養士	659	(63.9)
	医師	276	(26.8)
	歯科医師	164	(15.9)
	保健師	1019	(98.8)
	助産師	353	(34.2)
	看護師	443	(43.0)
	歯科衛生士	583	(56.5)
	介護支援専門員	170	(16.5)
	介護福祉士	43	(4.2)
	理学療法士	111	(10.8)
	作業療法士	55	(5.3)
	言語聴覚士	32	(3.1)
	社会福祉士	110	(10.7)
	事務職	759	(73.6)
	その他	68	(6.6)
職場内外を問わず、行政栄養士が連携すること が理想である職種は何ですか。特に重要だと思う 職種	他分野の管理栄養士・栄養士	852	(82.6)
	医師	702	(68.1)
	歯科医師	243	(23.6)
	保健師	949	(92.0)
	助産師	193	(18.7)
	看護師	236	(22.9)
	歯科衛生士	488	(47.3)
	介護支援専門員	201	(19.5)
	介護福祉士	69	(6.7)
	理学療法士	75	(7.3)
	作業療法士	37	(3.6)
	言語聴覚士	81	(7.9)
	社会福祉士	79	(7.7)
	事務職	427	(41.4)
	その他	40	(3.9)
キャリアプランの有無	ある	139	(13.5)
	ない	293	(28.4)
	検討中	599	(58.1)
ビジョンや目標(短・中・長期)を掲げて仕事をして いるか	している	378	(36.7)
	していない	219	(21.2)
	検討中	434	(42.1)
あなたには、目標とする栄養士像もしくは人物像 (将来の目標到達に向けて、備えたい能力や能力 を身に付けるためにすべきこと)の有無	ある	531	(51.5)
	ない	174	(16.9)
	検討中	326	(31.6)